

令和三年度

奥の細道矢立初めの地

子ども俳句相撲大会 句集



桃太郎

香蝶楼

主催 荒川区

荒川区教育委員会

日時 令和四年二月実施

名所にちる茶

子句
大は

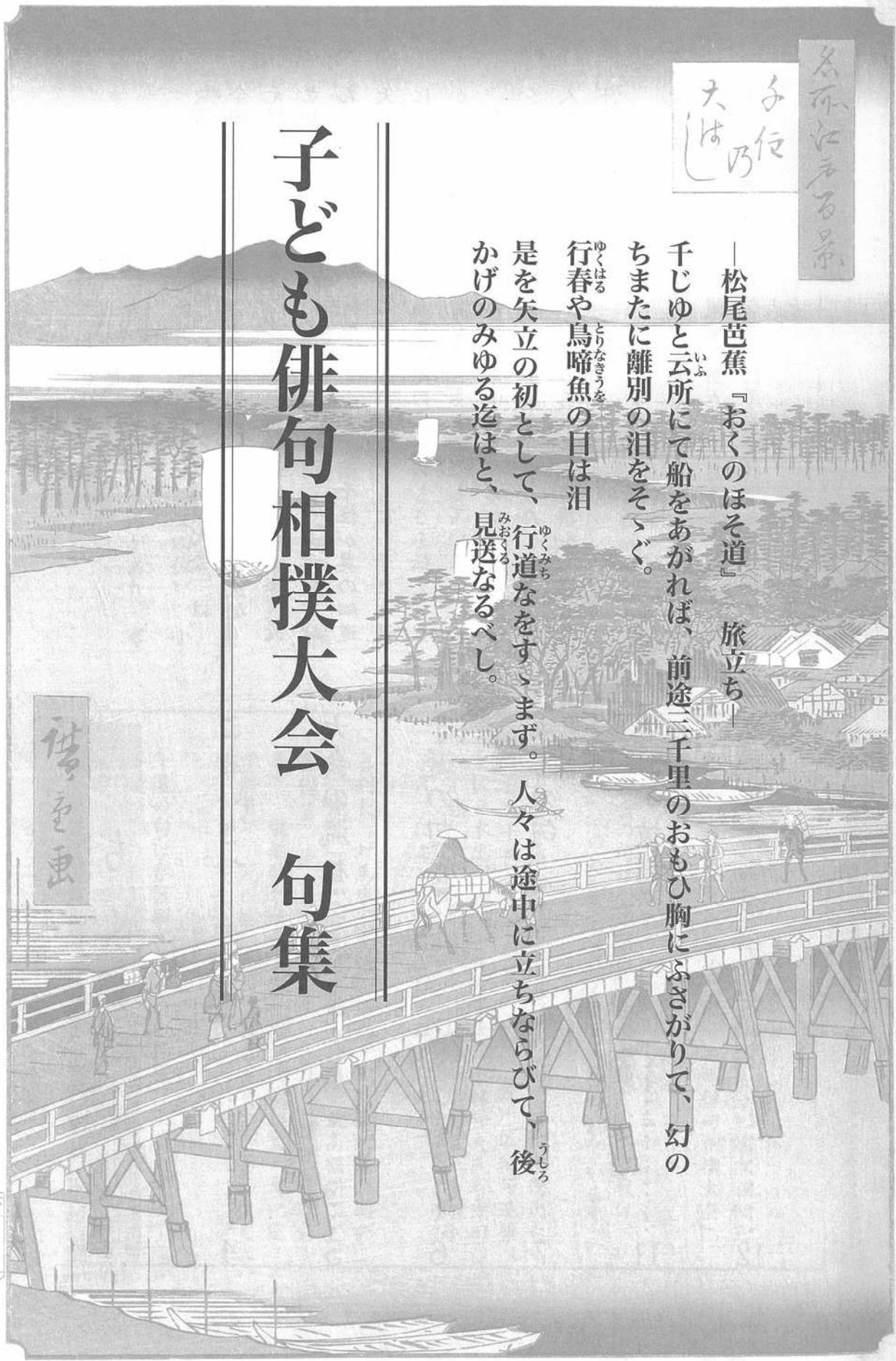
—松尾芭蕉『おくのほそ道』 旅立ち—

千じゆと云所にて船をあがれば、前途二千里のおもひ胸にふさがりて、幻のちまたに離別の泪をそそぐ。

行春や鳥啼魚の目は泪

是を矢立の初として、行道なをすまらず。人々は途中に立ちならびて、後かげのみゆる迄はと、見送なるべし。

子ども俳句相撲大会 句集



俳句を東

谷下魚栄

「奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会」は、今回で十三回目を迎えます。この大会は、松尾芭蕉が、元禄二年（一六八九）三月に奥の細道に旅立つ際、矢立初めの句「行く春や鳥啼魚の目は泪」を南千住で詠んだことにちなんで誕生しました。南千住が奥の細道矢立初めの地であることを広めるとともに、子ども達に日本の伝統文化である俳句の素晴らしさを伝え、豊かな感性と表現力を育むことを目的としています。今年度も予選を勝ち抜いた子どもたちが決勝句と絵を描いた個性あふれる作品が集まりました。小学生俳人たちのいきいきとした魅力あふれる句集をお楽しみ下さい。

また上位入賞チームのパフォーマンスは、後日動画で配信いたします。ぜひご覧下さい。

結びに、本大会の開催にあたりましてご協力いただきました関係者のみなさまに厚く御礼申し上げます。

令和四年二月 荒川区 荒川区教育委員会



大会の流れ

予選

二人一組で1チームを作り一人一句の俳句を作成。応募があった120チームの中から13チームが決勝に進出



決勝

予選を勝ち進んだ13チームによる決勝。横造紙に書いた俳句作品を、審判員の点数の合計で判定。横綱（優勝）、東大関（準優勝）、西大関（三位）、関脇（四位）、小结・殊勲賞・敢闘賞・技能賞等があり、審判長・審判の審査により決定

ごあいさつ・もくじ……………4

大会の流れ……………5

予選の句……………6

決勝の句……………7

総評・披講……………11

芭蕉さんへのご報告……………12

荒川区俳句のまち宣言……………13

【例言】

・本誌は、荒川区・荒川区教育委員会主催の令和三年度「奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会」の句集です。

・本大会の句は、予選は「春の季節」、決勝戦は、「雑祭」「のどか」の兼題をもとに作られています。

・本大会予選には、荒川区内の小学校十九校から計百二十チームの応募があり、荒川区俳句連盟（佐々木忠利氏、小林孝子氏、小林和夫氏、寺田千賀子氏、竹野美恵子氏、大矢幹夫氏、田岡弥寿子氏）によって選考が行われました。

・審判長 対馬康子先生（俳人、現代俳句協会副会長、俳誌『麦』会長、俳誌『天為』最高顧問）。
 審判員 佐々木忠利先生（荒川区俳句連盟会長）、能圓坊貴子氏（素盞雄神社権禰宜、文化室学芸員）、荒川区、荒川区教育委員会が務めました。

・予選の句は学区順、決勝の句は獲得点順（賞順）になっています。

予選の句

(順不同・学区順)

入学しきともだちいっばいたのしみだ	こうえんのさくらがさいたピンクだね	ゆりわかチーム (第三瑞光小学校)
がんばると心にきめた入学しき	新学年わかれと出会いのつう学ろ	春の学校 (第三瑞光小学校)
らんどせるぼくよりおおいにゆうがくしき	ものはなぼくのなまえといっしよだね	ゆうまもはるチーム (峡田小学校)
桜舞いむじゃきに笑うこともたち	もう春か空をながめるおとうさん	ゆり (峡田小学校)
入学は新たな一歩はじまりだ	花ふぶき桜ちるなり香るなり	最強チーム (第五峡田小学校)
しんがつきがくねんあがるうれしいな	クラスがえちがうともだちたのしみだ	はいく大好き (第七峡田小学校)
散る桜風につて未来へと	咲く桜散ったらじゅうたんまだ残る	未来桜 (第九峡田小学校)
春告げるふわりと舞って石鹼玉 <small>しゃぼんだま</small>	七色 <small>なないろ</small> にひかりかがやく石鹼玉 <small>しゃぼんだま</small>	花の木 (第九峡田小学校)
桜の木私の心も花開く	桜まう新学期くる合図かな	チーム親友 (尾久第六小学校)
もんしろちようきれいな羽でヒラヒラと	向かい風自転車おるおる春一番	ちよう春 (尾久第六小学校)
外出るとさくらがちらほらいい景色	歌ってるきれいな声のうぐいすが	きれいな桜と鳥 (尾久第六小学校)
桜並木並んで通る通学路	たんぼぼのわた毛を追って電車道	渡辺姉妹 (尾久小学校)
さくらの木ピンクのくにのプリンセス	春の花ぜんぶつなげてカーペット	さくらふぶき (第三日暮里小学校)

決勝の句

花の木

荒川区立第九峡田小学校

宮川 一歌さん

内山 柚香さん

【チーム名由来】2人とも花の木幼稚園にかよって

いて楽しい思い出を俳句に入れたかったからです

【意気込み】2人で協力してがんばります

横網(優勝)



審判長コメント

「のどか」というむずかしい季語を良く詠めています。芽吹き始めた木々の間から柔らかな陽ざしがこぼれる様子に春らしさを見つけました。横網おめでとございます。

東大関 (準優勝)

渡辺姉妹

荒川区立尾久小学校
渡辺 夕鶴さん
渡辺 雛子さん

【チーム名由来】姉妹だから
【意気込み】昨年はじゅん優勝だったので今年こそ横綱になりたいです

晴天や雲ゆったりとのどかな日

のどかなり水面に映る空と我

小結

ちよう春 はる

荒川区立尾久第六小学校
村山 隼将さん
伊藤 斗真さん

【チーム名由来】春は春一番からとって、ちようはもんしろちようからとりました
【意気込み】がんばったのでゆう勝したいです

おひな様横にかざるよ 桃の花

丘の上のどやかお風 自然の音

(三位)

西大関

ゆり

荒川区立峡田小学校
野田 莉桜子さん
山本 夢音さん

【チーム名由来】2人の名前のかしら文字
【意気込み】自分たちができるかぎりの力を出しきる

春の空ぼんやり見上げ 雲探し

口の中あまくとけつくひなはあられ

敢闘賞

最強チーム

荒川区立第五峡田小学校
別所 英治さん
絵面 領さん

【チーム名由来】クラスの中で一番と二番に強い人があつまつたチームだから
【意気込み】がんばるぞー

青空に雲一っないのどがだな

ひなまつりきれいな着物が春を呼ぶ

関脇 (四位)

春の学校

荒川区立第三瑞光小学校
亀井 美結さん
中込 瑠璃子さん

【チーム名由来】よせんのテーマ
【意気込み】あたらしい友だちとがんばろうときめた気もちを上手にあらわしました

おひなさま わたしの気もち うつつしてる

おひなさま あられをいっしょに 食べましょう

技能賞

さくらふぶき

荒川区立第三日暮里小学校 【チーム名由来】春の季節にぴったりのチーム名だから
青芝 拓飛さん
青芝 航輝さん
【意気込み】2回目だからこんどこそまけない

太ようはのどかな春のもうふみだい

ひなまつりひしもちたく山にじみだい

幕入賞

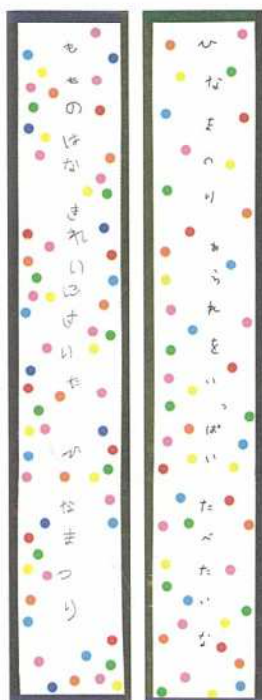
ゆりわかチーム

荒川区立三瑞小学校（小森谷 和花さん／村田 友里さん）
【チーム名由来】2人のなまえをいれました
【意気込み】がんばります



ゆうまもはるチーム

荒川区立峡田小学校（大津 佑馬さん／濱田 百治さん）
【チーム名由来】なまえから考えました
【意気込み】がんばるぞ！



総評

審判長 対馬康子

世界的新型コロナ感染が治まらず、今年度も土俵の上に一堂に会しての千秋楽を見ることはできませんでしたが、それに負けず、子どもたちの明るい俳句の数々に勇気をいただいたと思います。決勝に進まれたチームの皆さんおめでとう。

優勝した花の木チームは力ある俳句とともに、それを表した短冊の絵もとても印象に残りました。渡辺姉妹は昨年が続いての東大関で、「晴天や」の切字、「空と我」と自分に引き寄せて詠んだところが良かった。西大関ゆりは、「雲探し」や「あまく」に感情がうまうま表れています。関脇春の学校は、お雛さまへの等身大の語りかけがかわいらしい。のどかの作品で空への視線が多かったのは、広く自由にはばきたいという思いなのでしょう。小結ちよう春の、のどかな風を「自然の音」とは大きくとらえています。「雛」の題では、楽しい景が目につかびました。また、太陽が春の毛布、ひし餅が虹のようだとは素敵なたとえです。

不自由な生活が続いていますが、空や海や木や花や自然は変わらずそこにあります。毎日の暮しの中に俳句は生まれます。来年の大会で元気に再会できますことを楽しみにしています。

未来桜

荒川区立第九峡田小学校（大野 彩さん／山下 夏央さん）
【チーム名由来】ちってもちつもつぎつぎにさいていく桜のように、私たちの俳句も未来へつながってほしいからです
【意気込み】私たちの俳句が未来へつながるようがんばります



きれいな桜と鳥

荒川区立尾久第六小学校（鈴木 理隼さん／松村 理紗さん）
【チーム名由来】桜はきれいでうぐいすは鳥なので組み合わせました
【意気込み】うぐいすが鳴いてるところや外に出たときに見る桜を思い浮かべて書きました。初めてですがゆう勝したいです



チーム親友

荒川区立尾久第六小学校（近藤 唯織さん／萩原 世菜さん）
【チーム名由来】保育園の時からめっちゃ仲が良いから
【意気込み】親友どうしががんばります



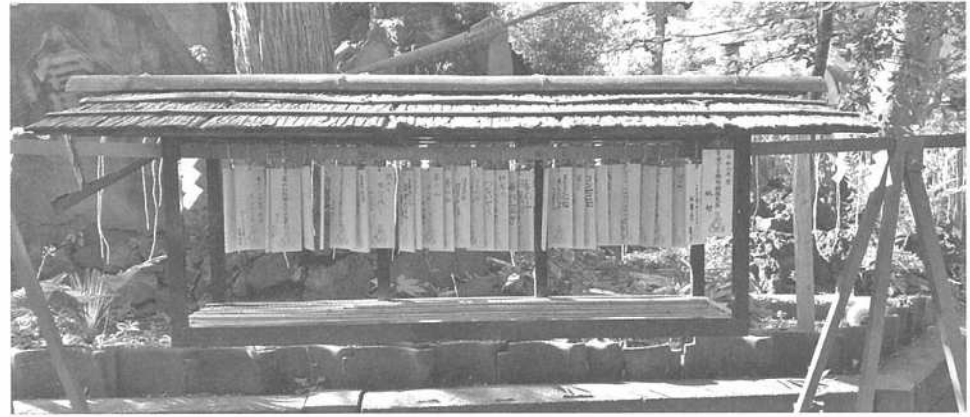
披講

桃咲くや旅の始めの橋ひとつ 対馬康子

難解な古書を投げ出し朝寝かな 佐々木忠利

自註 絶版になり一般の書店では手に入らない本を友人から借りて読んでおりましたら、先に進むにつれてわかり難く早々に投げだし熟睡したのでしようか、朝になっても目が覚めずに寝過ごしてしまいました。

芭蕉さんへのご報告



報告した俳句の木札は、素盞雄神社境内に飾られました
(昨年の様子)

松尾芭蕉が千住から旅立って、約百三十年後、文政三年（一八二〇）十月十二日の芭蕉忌に、千住大橋に程近い素盞雄神社に、千住の人々によって芭蕉の奥州への旅立ちを記念した松尾芭蕉の碑が建てられました。芭蕉の座像と「おくの細道」千住の一節が刻まれています。

子ども俳句相撲大会では、決勝戦用の俳句を素盞雄神社からいただいた木札に書いて、大会審判の先生方ともに、代表チームが松尾芭蕉の碑に報告しています。



松尾芭蕉の碑と俳句の木札

荒川区俳句のまち宣言

「行春や鳥啼魚の目は泪」

元禄2年3月この句を矢立初めの句として

松尾芭蕉はその生涯をかけ「奥の細道」へと旅立ちました

芭蕉が渡った千住大橋は江戸と東北の地を結び

私たちが俳句の世界へといざなう大橋として

昔もいまもこれから隅田川に架かります

私たちの暮らすまちには人々が行き交い

芭蕉の想いと四季折々の美しさに導かれ

子規が一茶が山頭火がこの地で俳句を詠みました

「五・七・五」17文字の無限に広がる世界の中で

私たちは思いを伝える力を持ちます

新しいものを創りだす力を持ちます

世界中の人たちと心をつなぐ力を持ちます

荒川区は

俳句の魅力を次代につなぐ架け橋として

子どもから大人まで俳句文化のすそ野をひろげ

豊かな俳句の心を未来に伝えることを誓い

「俳句のまちあらかわ」を宣言します



大会キャラクター「ばしょうくん」

奥の細道 矢立初めの地 千住あらかわ

表紙 相撲錦絵「桃太郎・怪童丸」(部分) 香蝶楼豊国画(国立国会図書館蔵)
扉 名所江戸百景「千住の大はし」 歌川広重(荒川ふるさと文化館蔵)
裏表紙 大会キャラクター「ばしょう君」

令和三年度 奥の細道矢立初めの地
子ども俳句相撲大会 句集

令和四年二月

編集 荒川区立荒川ふるさと文化館
〒一六〇〇〇三
荒川区南千住六―六三―一
TEL 〇三―三八〇七―九二三四
発行 荒川区・荒川区教育委員会
印刷 株式会社マステック
登録番号 (〇三) 〇一〇八号